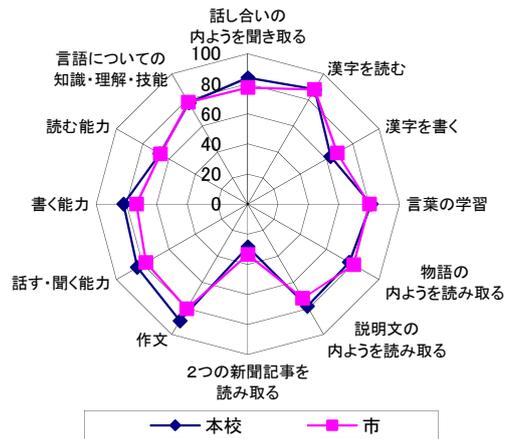


宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	84.1	77.4
	漢字を読む	88.1	87.9
	漢字を書く	63.1	68.1
	言葉の学習	81.3	80.2
	物語の内ようを読み取る	77.3	80.6
	説明文の内ようを読み取る	78.4	72.3
	2つの新聞記事を読み取る	28.4	33.5
	作文	89.5	80.3
観点別	話す・聞く能力	84.1	77.4
	書く能力	81.8	73.4
	読む能力	66.9	66.4
	言語についての知識・理解・技能	77.6	78.2



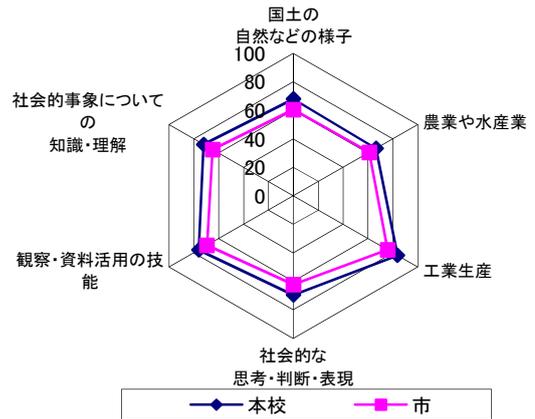
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約85%で市の平均も上回っており、定着していると言える。 設問別に見ても全体的によくできている(正答率86%~93%)が、話し手の意見の相違を聞き取り、自分の意見を述べる(記述する)問題のみ正答率が約72%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も1分間スピーチなどを継続し、自分の意見をしっかり伝えられるようにするとともに、相手の意図を考えて聞いたり、自分の考えと比べて聞いたりする習慣をつけ、考えながら聞くことができるようにし、話の内容に沿って自分の意見をまとめ、述べられるようにする。 話し合い活動では、どの児童にも司会を経験させ、話し手の意見の類似点や相違点を考えながら聞く習慣をつけさせる。
漢字	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は漢字の読みが約88%と市の平均と同程度で、書きが約63%と市の平均も下回っているため、重点的に復習する必要がある。 設問別に見ると、「読み」はほぼよくできているが、それに比べて「書き」の正答率がかなり低かった。特に、4学年で学習した漢字の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 4学年で学習したのも含め、5学年までに学習した漢字について、特に「書き取り」の練習を重点的に行い、定着を図る。同じ部首の漢字や似た意味の漢字、同訓・同音の漢字や送り仮名などについても復習し、さらなる定着を図る。 読書の奨励や辞書の活用などにより、漢字に触れる機会を増やし、学習した漢字を使って文章を書こうとする意識と習慣をつけ、より幅広い漢字の知識が身に付くようにする。
言葉の学習	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約81%で、市の平均とほぼ同程度であり、全体的にはほぼ身に付いていると言える。 設問別に見ると、文脈に沿った漢字を適切に選ぶ問題の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続語の種類・役割について復習し、さらなる定着を図るとともに、ことわざの意味について復習し、文章の中で活用できるようにする。 同音異義語について復習し、文章の中で文意に照らして正しく選択できるようにしていく。
物語の内ようを読み取る	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約77%で、ほぼ身に付いていると言えるが、市の平均はやや下回っている。 設問別に見ると、登場人物の様子を読み取る問題はよくできているが、登場人物の心情をとらえる問題は正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書の時間を充実させたり、音読や読書活動を積極的に取り入れたりと、本に親しむ機会を増やし、読解力を伸ばしていく。 国語の授業において、特に、登場人物の様子や心情を考えたり、場面ごとの内容を読み取ったり、場面のつながりや移り変わりを考えたりする学習を意図的にを行い、それらの力を伸ばしていく。
説明文の内ようを読み取る	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約81%で、ほぼ身に付いていると言えるが、市の平均は下回っている。 設問別に見ると、文脈に即して内容を理解する問題や段落と段落の関係をとらえる問題の正答率が他の問題より低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文を読む機会を増やし、段落ごとに要旨をまとめたり、筆者の言いたいことを読み取ったりする学習を意図的にを行い、文脈に即して書かれている内容を読み取ったり、段落と段落の関係をとらえたりする力を伸ばしていく。
2つの新聞記事を読み取る	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約28%で、市の平均を下回っており、二つの文章の共通点と類似点を読み取る力が身に付いていない。 二つの新聞の相違点を「立場」という観点から述べる事ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から新聞記事を授業の中で活用し、見出しと内容の関連や、使用している資料などに着目して読み取らせる。また、記事についての自分の考えを持ちながら読む習慣を付けさせる。
作文	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約90%で、市の平均も大きく上回っており、よく身に付いていると言える。 新聞に載せる学校行事を紹介する文章を書く問題であったが、ほとんどの児童が段落ごとに行事の内容と自分の感想を区別して書くことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も日常の学習活動の中で自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、継続的に文章を書く習慣を身に付けさせ、書く力を高めていく。 他教科での学習のまとめに新聞やパンフレットを作成する機会を設け、読み手を意識しながら伝えたい内容をまとめる力を付けさせる。また、読み手の感想等を伝え、意欲的に文章での表現活動に取り組ませる。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	67.9	60.4
	農業や水産業	66.4	61.0
	工業生産	83.6	75.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	69.5	62.2
	観察・資料活用 の技能	76.0	69.4
	社会的な事象についての知識・理解	72.1	65.0



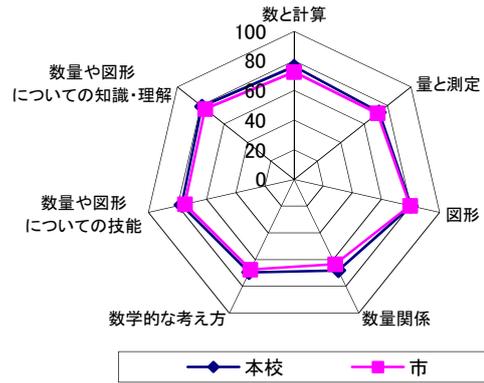
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約68%で、市の平均を8ポイント上回っている。 設問別に見ると、大陸の名称と位置や日本の近隣の国の名称や位置について正答率が高かった。日本の国土を形成している島の名称や位置については正答率が40%から50%と低く、身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に地図や地球儀で調べる活動を行い、大陸や国の位置や名称を定着させる。また、ニュースで話題になった国や都市を自分から進んで確かめる習慣を付けさせる。 白地図に調べたことをまとめる学習を取り入れ、社会事象の地理的な理解を促す。 日本の気候をグラフから読み取るなど、資料から分かることを言語化させる。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約66%で、市の平均を5ポイント上回っている。 設問別に見ると、資料をから米作りの盛んな地域を読み取る問題や食糧自給率の問題点についての正答率が高かった。漁業の種類についての問題の正答率が27%、50%と低く理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業や水産業での新出語句について調べてノートまとめさせるなどして、学習で用いられる語句の整理・定着を図る。 複数のグラフから自分の意見を述べるために必要な資料を選択するなどの学習活動を通して、社会的思考力を高めていく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約84%で、市の平均を8ポイント上回っている。 設問別に見ると、自動車会社の環境や福祉に対する取り組みについての問題や自動車工場ではたらく人の工夫や努力についての正答率が80%から90%と高かった。複数の資料から日本の輸入品の変化について読み取る問題の正答率が42%と低く、資料の活用ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の工業製品やテレビコマーシャル等、自分と関わりの深い工業について目を向けさせ、産業についての関心を高める。 複数のグラフから自分の意見を述べるために必要な資料を選択するなどの学習活動を通して、社会的思考力を高めていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	76.2	72.5
	量と測定	72.7	71.5
	図形	80.2	79.6
	数量関係	68.2	63.5
観点別	数学的な考え方	69.6	67.6
	数量や図形についての技能	77.4	75.1
	数量や図形についての知識・理解	79.0	76.3



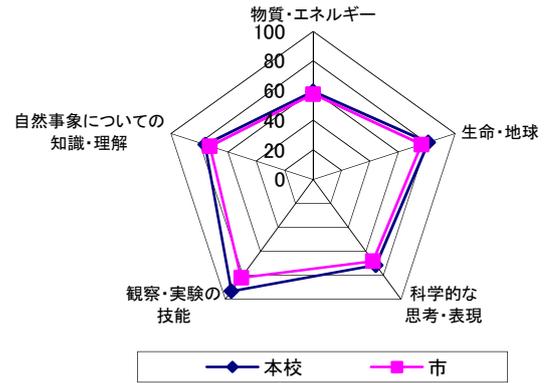
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約76%で市の平均を上回っており、ほぼ身に付いていると言える。 設問別に見ると「分数のたし算」「分数のひき算」「小数のかけ算」がおおむねよくできていた。 「少数のわり算の文章題」「あまりを求める小数のわり算」の正答率がともに50%前後と他に比べて低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数の表し方と割り算との関係を重点的に復習し、定着を図るとともに、文章題に重点的に取り組ませ、文章を読み内容に合った正しい式が立てられるようにする。 「小数×小数」の位取りについて復習し、答えに小数点を正しく打てるように復習する。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約73%で、市の平均を2ポイント程上回っており、おおむね身に付いていると言える。 設問別に見ると、「体積」「単位量あたりの大きさ」の問題の正答率が低かった。復習して定着を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 立方体や直方体、それらを組み合わせた立体の体積の求め方を復習し、正しく求められるようにする。 「単位量あたりの大きさ」は、理解するのも難しく個人差もあるので、重点的に復習して更なる定着を図る。特に、単位量あたりの大きさを求める式が正しく立てられるようにし、「比べられる量」と「もとにする量」が見分けられるようにしていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約80%であり、おおむね身に付いていると言える。 設問別に見ると、特に「合同な図形」に関する問題は比較的よくできていたが、「多角形の内角の和」「対角線の性質」については正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな図形の性質や、合同な図形の性質などについて復習し、更なる定着を図る。 特に三角形や四角形を含めた多角形の角の性質については重点的に復習し、内角の和や、それを利用した未知の角の大きさの求め方などについて定着を図る。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約68%で市の平均をやや上回っている。 設問別に見ると、「比例の関係」「計算のきまり」に関する問題の正答率が低かった。特に式の意味を理解し、式の答えから逆算してもとの数の求め方を記述する問題では、正答率が約45%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算のきまりについては苦手意識を持っている児童が多いので、重点的に復習して理解・応用できるようにする。 特に、かけ算・わり算とたし算・ひき算の混じった式のきまり(結合法則や分配法則)と、それを応用すると計算が簡単になる場合があることを理解させる。 正解を求める過程を、図や文で説明する機会を授業の中で増やし、数学的な考え方を身に付けさせる。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	59.4	57.6
	生命・地球	81.1	76.3
観点別	科学的な思考・表現	71.5	68.1
	観察・実験の技能	93.2	82.0
	自然事象についての知識・理解	76.0	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約59%をやや上回っている。 この領域は4年で学習した内容の設問である。 設問別に見ると、ほとんど市の平均と同程度である。 水が沸騰したときの気体・液体の姿を選ぶ問題で正答率が20%、水と金属のあたたまり方の違いを問題が34%と低かった。これらは、市の平均よりは高いが定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって興味をもって取り組める実験が多い。水蒸気は目に見えないことから現象をとらえにくかった。実験・観察を継続し、結果を実感することができるようにしていく。 実験を行った結果からなぜそうなるのかよく考え、科学的な思考力を高められるようにしていきたい。もののあたたまり方では、共通点・相違点を比較しながらまとめ、知識として定着が図れるよう取り組んでいく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は約81%で市の平均を上回りほぼ身につけている。設問別に見ても植物の発芽と成長や魚のたんじょう、植物の受粉などの設問では81～97%と正答率が高く、定着している。 雲の動き方を問う問題で、市の平均を下回り56%となっている。 冷やした容器に水滴がつくことを記述する問題では、市の平均を5%ほど上回ったが、正答率が15.9%とかなり低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡の使い方など実験・観察の技能がよく身につけているので、実際に使用する体験を継続していく。 知識として定着が図れるよう単元の最後のまとめで、学んだことをもう一度、振り返れるようにしていく。 実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるようにする。結果をグループで話し合うことやノートに記述する学習により定着を図りたい。 活用の問題では、学んだことを生かして身の回りに起こる現象を説明する学習にも取り組んでいく。